

ぷしーパーク

の すすめかた

～札幌で関わる人のためのハンドブック～



はじめに

近頃の子どもは外遊びの機会がめっきり減り元気がなくなったと言われます。少子化、住宅事情、教育へのプレッシャー、地域とのつながりの希薄化など、子どもを取り巻く環境は大きく変わり、遊ぶ時間や仲間、場所がどんどん削られてきているのです。

いっばうで、安心して自分を自由に表現できる場があれば、子どもはいきいきと遊びます。いろいろな人と関わりながら自らの心と身体を育て、生きる力を身につけられるのではないのでしょうか。プレーパークづくりは子どもの外遊び環境を支える方法の一つですが、大人がちょっと手助けすることで子どもの力が生かされていきます。単に子どもの体験活動の場としてだけでなく、地域の多様な人をつなげ、地域を変えていく力も秘められています。

この冊子は、札幌でプレーパークを行う際に基本となる考え方・進め方をまとめています。運営団体やプレーリーダーなどプレーパークに関わる人はもちろん、仲間になってほしい人にも読んでほしい、みなさんで「子どもの遊び」に対する考え方を共有していきましょう。



もくじ

プレーパークはこんなところ

歴史とひろがり …………… 2

目的と特徴 …………… 3

札幌のプレーパーク

あゆみ …………… 4

仕組み①運営団体とプレーリーダー …………… 5

②様々な人が関わっています …………… 6

運営①プレーパークをやろう!と思ったら… 8

②個性にあわせて様々に展開 …………… 10

③自由に遊べる環境づくり …………… 12

④団体の自立性を高めるために …………… 14

⑤伝えるために …………… 15

安全対策の初歩

プレーパークならではの安全対策を …………… 16

リスクとハザード

ハザードの種類 …………… 17

危険に備える …………… 18

ケガ・事故が起きたら …………… 19

子どもに関わる大人の姿勢

遊び心を刺激するきっかけづくり …………… 20

直接関わる時に …………… 21

困ったことをする子が一番困っている? …………… 23

ふりかえりをしよう

大人同士の関係を紡ぐ …………… 24

問合せ先一覧 …………… 25



プレーパークはこんなところ

●歴史とひろがり

世界で最初のプレーパークは、1943年デンマークのコペンハーゲン市郊外につくられました。造園家ソーレンセン教授の「こぎれいな遊び場よりもガラクタの転がる空き地や資材置き場で、子どもたちが大喜びで遊んでいる」という長年の観察に基づいたものでした。

その考え方が各国で支持され、現在ヨーロッパ全体には600カ所程度のプレーパークが整備されており、韓国などアジア圏にも広がっています。

日本では1970年代半ばに東京都世田谷区で故大村虔一・璋子夫妻が始めたのがきっかけと言われています。夫妻はアレン卿夫人（イギリス）の著書でプレーパークのことを知り、地域の人々に「自分たちの子どもにもこういった遊び場をつくろう」と呼びかけ、賛同した仲間活動を始めました。1979年には世田谷区に日本初の常設「羽根木プレーパーク」が誕生、1981年から有償プレーリーダーを置いて、現在も地域住民と行政との協働運営が続いています。

1990年代の後半からプレーパークづくりは草の根的に広がり、2014年現在全国で常設・非常設合わせて400以上の団体がプレーパークを運営しています。団体の8割以上は地域住民が自主的な市民活動として担っており、その多くは行政と様々な協力関係を築きながら運営にあたっています。



区立公園の一角を利用した常設「羽根木プレーパーク」

プレーパーク

冒険遊び場

プレイパーク

Adventure Playground

どれもだいたい同じ意味

プレーリーダー

プレイワーカーとも

言います。



●目的と特徴

目的

- 子どもが、遊ぶことを通してやりたいことを実現し、人との関わりあいの中で自ら育つ環境をつくります。
- 外で遊ぶことの楽しさや価値を、多くの人に伝えます。
- 子どもの遊び場づくりを通して、地域の様々な人をつなげます。

特徴

- いつでもだれでも自由に遊べる野外の遊び場です。
- 地域住民が運営し、プレーリーダーが子どもの遊びを支えています。
- 禁止事項をできるだけ減らし、子どもが、自分のやり方で創意工夫・挑戦・失敗しながら遊べる場づくりをしています。

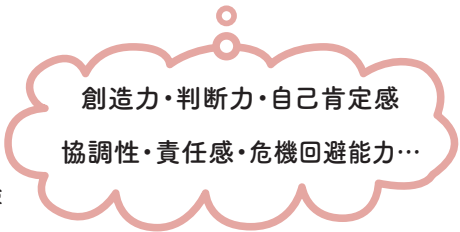


- | | |
|----------------------------|------------------|
| ① 子どもの生活圏にある
自分の足で行ける距離 | ② いつ来ても、いつ帰ってもいい |
| ③ 申し込み不要 | ④ 赤ちゃんからお年寄りまで |
| ⑤ 基本的に参加費は取らない | ⑥ 自然豊かな屋外環境である |
| ⑦ つくりかえできる要素がある | ⑧ プログラム化しない |

自分の責任で自由に遊ぶ！



子どもたちが自分でやってみる経験をたくさん積んで、じっくり育つ場をつくります。





札幌のプレーパーク

●あゆみ



平成22年度までは、プレーパークに関心がある人はいるものの、札幌市内で実際に活動しているのは、3団体のみでした。

平成23年度に札幌市が「札幌市子どもの最善の利益を実現するための権利条例」に基づき、「プレーパーク推進事業」を始めたことで、活動の輪が広がりました。平成26年12月現在、プレーパーク事業実施団体として札幌市に登録し、活動している団体は、14団体になりました。

近所のお母さん同士、その公園が好きな仲間同士、子育て支援のNPO…プレーパークの考え方に共感した人たちが団体を作り、それぞれの団体が行政と連携してできる範囲で、子どもたちの自由な遊び場づくりを進めています。



● 仕組み① 運営団体とプレーリーダー

札幌市では、「運営団体」と「プレーリーダー」がお互いに協力・相談しながらプレーパークを運営しています。プレーパークの目的や特徴を理解し、プレーパークへの関わり方や危険管理の考え方を理解しておくことは両者に必要ですが、担う役割や求められる技能が少し違います。

地域の子どものために
一肌脱ごう！自分も楽しいよ！



運営団体

- 主催者として責任を持ち、プレーパークを運営する。
- プレーパークの計画や方針を決め、運営に関する事務全般を行う。
- 地域や関係機関とつながり、日常的にコミュニケーションをとることで、社会との関係を調整する。

子どものいのちを守る仕事
として、専門的な技能を求
められる立場でもあるよ。



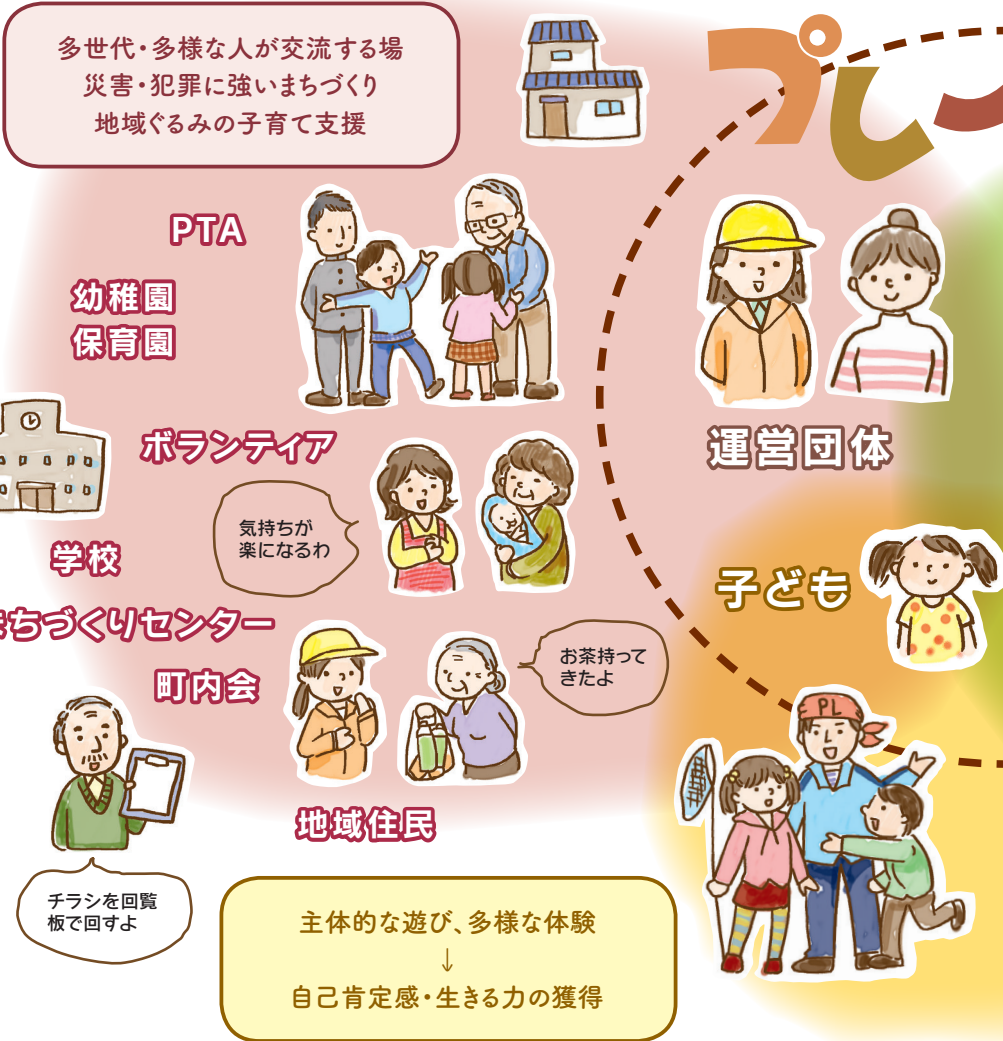
プレーリーダー

- 子どもが自由に遊べる環境を整え、遊び場全体をコーディネートする。
- 子どもたちの遊び心を刺激し、子どもの遊びを見守る。
- 子どもの声を代弁する。
- プレーパークでの自分の行動や、他者への関わりをふりかえり、常に研鑽する。



●仕組み② 様々な人が関わっています

プレーパークは、地域や行政、学生などいろいろな



プレーパークに関する情報を共有するネットワークがあります



人たちが関わり、協力しあいながら運営しています

プレーパーク



子どもの健やかな成長
自主的な体験活動の場
協調性・創造性を育む場づくり

札幌市子ども未来局

プレーパーク事業実施団体の支援

子ども達が健やかに育つ
遊び場づくりを応援します

初めての団体さんを応援！遊びに
関する講座も企画しています



プレーリーダー

(公財)札幌市公園緑化協会

研修の企画。出前講座、出張プレーパークの対応。プレーパークに関する様々な相談。



開催したい場所の管理者

(場所により管理者が違います)

札幌市(環境局みどりの管理課、各区土木センター、指定管理者)、北海道、私有地の所有者

利用の時は
ご相談ください

消防署

警察署



- 札幌プレーパーク連絡会…札幌市内の団体
- あそびばネット北海道…道内の個人
- 特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会…日本国内の団体・個人



●運営① プレーパークをやろう!と思ったら

相談

仲間を集めてみんなで相談

- わからないことがあったら、札幌市子ども未来局or(公財)札幌市公園緑化協会(P25)に相談しましょう。



いつ?
どこで?
どんな遊び?

開催場所の管理者に相談

- どこでどんな遊びを考えているか、具体的に説明しましょう。
- 公園で火を使う、テントを設営する等、通常の公園利用の範囲を超える活動は管理者と一緒にを行う等で認められる場合がありますので、事前に相談しましょう。
- 当日の参加人数の見込みも伝えましょう。

こんな遊びを考えています

プレーパークをやっていることが分かるように周知を明確にしてください



準備

チラシを作成・配布 (P15を参照) 保険加入

- 補償内容を確認して、参加者・運営団体それぞれに合った保険に加入しましょう。

施設賠償保険 ボランティア活動保険
行商用保険

物品の用意・調達



当日の段取り (P18も参照)

- 当日の動きを関わる人でイメージしましょう。
- 危険管理の考えや参加者の対応について共有しておきましょう。

下見・プレーリーダーと打ち合わせ

- 予想される子どもの人数や年齢層、天候などに合わせて遊び場のデザインを確認しましょう。

届出

- 公園を使う場合は、利用届または申請書を提出。
- 火を使う場合は、消防や警察に相談。

※札幌市プレーパーク推進事業の活動支援を受ける場合は、別途手続きが必要になります。

詳しくは、札幌市子ども未来局子ども育成部子どもの権利推進課または(公財)札幌市公園緑化協会に確認しましょう。



プレーパーク

開催前に

- 天候を確認して開催するかどうかの判断をします。雨の時は雨よけにもなるブルーシートを多めに準備するなど、天候に合わせて使うアイテムを見直しましょう。

開催

- プレーリーダーと運営団体と一緒に準備しましょう。
- 受付はわかりやすい入り口に。チラシを常に置きましょう。
- 遠目からでも活動がわかるように、看板や横断幕でアピールしましょう！
- 危険性が高い場所（木工コーナー、ロープ付近など）は、常に大人がいるようにしましょう。
- 運営団体とプレーリーダーはチームワークで常に全体を見渡していきましょう。
- サービスを「提供する側」と「される側」に分かれない運営がベスト！運営団体も時にはのんびりおしゃべりを楽しみましょう！

[一口メモ]

- * 救急箱の置き場所を決めておきましょう。
- * レジ袋は何かと便利！止血時にも使えます。
- * 木工をする時はブルーシートを敷くと落ちた釘が拾いやすくなります。
- * 工具は管理できる数を出しましょう。ほったらかしはケガのもと！
- * 500mlペットボトルの水を2本用意すると飲むことも傷口を洗うこともできて便利です。

終了・片付け

- 現状復帰！来た時よりも美しく。

掘るのも
戻すのも
オモシロイ！



ふりかえり

確認しよう

- 開催日時
- 天候
- 参加人数
- スタッフ名
- プレーリーダー名
- 怪我や事故はあった？
- ヒヤリ・ハットはあった？
- その日の出来事について
(場所のこと・参加者のこと・自分のこと)

[一口メモ]

ファイルにまとめて共有。
次回開催に活かしましょう！

報告

関係者に簡単な報告を
しましょう。

参加者
40人でした。
またやってくだ
さいという声も
多かったです



事故もなく、
よかったですね





● 運営② 個性にあわせて様々に展開(活動紹介)

さっぽろ冒険遊びの会 (中央区円山公園)

～初めての子育てを応援します！

月に数回、主に平日の午前中に開催しています。乳幼児の親子の参加が多いですが、保育園児や振替休日の子どもも来

ますし、祝日には多様な年齢層が集まります。地下鉄駅からも近いので、近隣だけでなく市内近郊からも遊びに来てくれます。木の実など自然素材を使ってのまごやダンボールでおうちごっこ、夏は水遊びをしたり、冬は原生林をダイナミックに滑り降りたりと、子ども達の興味のおもむくまま楽しく過ごしています。



自然遊びの会どろっぼ (北区百合が原公園)

～やってみたい!が大事

百合が原公園を拠点とし、地域のコミュニティカフェなど北区のいくつかの場所でプレーパークを開催しています。わが

子が外で思いっきり遊べる場所をつくりたいという思いから始まった団体です。2013年に活動を開始し、関わるメンバーも無理をせず楽しめる場として、少しずつ活動回数や一緒に遊び場をつくる人を増やしながらかつ続しています。季節の自然素材を用意して、子どもたちの「やってみたい!」が実現できる遊び場づくりをしています。





場所によって、来る子どもの年齢によって、団体によって遊びはいろいろ。
札幌市内各地で、様々なプレーパークが展開されています。

ゆうきもりもり
遊木森森
(豊平区西岡公園)

～自然の中の遊び場

西岡公園の豊かな自然の中で遊んでいます。夏はダンボール、冬はブルーシートを使う尻滑りは、子どもから大人まで大人

気!他にも、泥んこ遊びにロープ遊び、森の中での秘密基地づくり、ちいさなお子さんがのんびり遊べるままごとコーナーなど、誰もが楽しめる遊び場になっています。土日開催の「にしおかプレーパーク」は年5回程度、主に火曜午前開催の幼児向け「ちょこっとプレーパーク」は年15～20回程度を予定しています。



月寒プレーパークの会
(豊平区月寒公園)

～誰もが自由に過ごせる場所

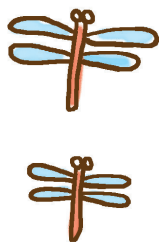
好きなことをみつけて遊んでもいいし、ただ見ているだけでもOK、決まった遊びやプログラムがなく、大人も子どもも自由

に過ごせる場所です。団体では自由に使える道具や材料、少しの遊ぶきっかけを用意して子どもが自分で決めたことを自分でできる遊び場をつくっています。平日午前中のプレーパークには乳幼児親子が多く参加してのんびりとした雰囲気、土曜日のプレーパークでは小学生をメインに色々な遊びが展開されています。





● 運営③ 自由に遊べる環境づくり





遊びが子どもの ものになるように

プレーパークで大切にしたいのは、「子どもが主役」ということです。プレーパークに関わるみなさんの役割は、それを守ることにあります。たとえ、最初のきっかけは大人が作ったとしても、その後は子どもたちのものになるよう意識しましょう。つまり、大人は「気付いたらいない」というのが理想です。遊具を例にとれば、大人が付きっきりになるようなものはできるだけない方がよいのです。実力のあるプレーリーダーは、子どもたちだけでも充分に使いこなせる遊具のデザインを常に工夫していくものです。

「遊ぶ」ということは、子どもたちが自分の人生の“今”を自分なりにつくることができる大切な機会です。それは、大人の用意したプログラムやスケジュールをこなす日々を送るような子どもたちにとっては、とても貴重な機会になっています。



●運営⑤ 伝えるために

チラシは、多くの人にプレーパークのことや団体のことを知ってもらう、仲間を増やすなど、活動を広げるために効果的な手段です。チラシを作成する時は、「誰に(=対象)」「何を(=目的)」「どの様に(=方法、手段)」が明確になるよう工夫しましょう。

例

- ① 団体名
- ② 開催日時
- ③ 開催場所
- ④ 対象
- ⑤ 持ち物
- ⑥ 注意事項
- ⑦ 大人へのメッセージ
- ⑧ 問い合わせ先

〇〇みんなであそぼー会の

〇〇プレーパーク

どうも遊びや水遊び、自然の中で自分の宝物を探したり…
いつもの公園だけど、ひとあじがう遊び場がまっているよ、みんな来てね!!

とき	じかん
5月××日(水)	10じ30ふん～15じ
6月××日(水)	10じ30ふん～15じ
7月××日(水)	10じ30ふん～17じ

かいさいばしょ: △△△公園 (△△区△△東2-1 ××スーパー前)
 たいしょう: 赤ちゃんから大人までどなたでも
 (未就学児は保護者同伴でお願いします)
 もちもの: 帽子、飲み物、お弁当、着替え、タオルなどひつようだと
 おもものももってきてね! いくてもいつかえってもOK!

汚れたりぬれてもかまわない服装でおいで下さい。
 悪天の場合は延期 当日8時以降にブログで確認できます。
 申し込みはなりません。参加費は無料です。
 公園の前など路上駐車をしないようご協力下さい。

大人の皆さまへ
 プレーパークは「自分の責任で自由に遊ぶ」を motto とし、地域の大人が中心になり子どものやってみたい気持ちを応援する遊び場です。
 禁止事項をできるだけ少なくして、子どもたちのチャレンジを見守ります。子どもが自分で自分の限界を経験から学ぶ体験活動の場、プレーパーク。
 合い言葉は「クガと弁当自分持ち!」
 大人もおおらかな気持ちで楽し過ごしましょう。

主催: 〇〇みんなであそぼー会
 お問い合わせ: 011-666-1111 (担当☆☆)
 *この事業は札幌子ども未来館のプレーパーク推進事業の支援を受けて実施します

- 知り合いに配るだけでなく、近隣の学校・公共施設や商店にも置いてもらいましょう。
- 町内会の回覧板でも回してもらいましょう。
- 火気使用の際は、あいさつ状と共に近隣へ配りましょう。

～チラシ以外にも、さまざまな広報のしかたがあります～

- ホームページ・ブログ等インターネットでの発信……活動の告知と報告に便利です。
- 通信・団体リーフレット・団体名刺……近隣のお店などにも置いてもらいましょう。
- パネル展示……子育てイベントなどに出席して、多くの方に活動を知ってもらいましょう。
- 写真展……公共交通機関や施設などでアピールしてみましよう。
- 出前講座……スライド写真の上映会をして、参加者と一緒に遊び場をふりかえる出前講座をやってみませんか。



安全対策の初歩

●プレーパークならではの安全対策を

こんなこと、ありませんか？

- 何でも「危ない!」と止めてしまう。
- 危険に対する知識も視点もないので、何でもやらせてしまう。
- 「危ない!」という言葉に過剰反応して、「大丈夫」と言い切ってしまう。

子どもが遊びを通して冒険や挑戦をし、心身の能力を高めていけるのはプレーパークの価値のひとつですが、そこには危険性も内在しています。危険に挑戦しながらも重大な事故が起こらないよう、危険を適切にマネジメントすることがプレーパークに関わる大人の重要な役割です。運営団体とプレーリーダー（スタッフ）が協力して進め、危険に対する考え方を、遊び場に来る人に伝えて理解を得るようにしましょう。

●リスクとハザード

プレーパークでは危険を2つに分けて考えています。運営団体とプレーリーダーの役割は、重大なハザードを取り除き、子どもに応じて挑戦できるリスクを残しておくことです。

危険に 挑戦できる!

リスク

子どもが自ら予測可能な危険

.....
リスクと触れ合うことで危険の見極め方を体得していきます。リスクへの挑戦は、子どもの成長や学び・発達に必要です。

ハザード

重大な危険は とりのやく!

子どもが予測できない隠れた危険

.....
ハザードは目に見えないので、命にも関わる重大な事故につながります。

危険に関する自分の知識と照らし合わせながら、目の前の子どもの行動や遊びの状況を読み対処する経験を積むことが必要になります。



●ハザードの種類

動線



人の動きや遊びがぶつかる場所

突起物

釘やボルト、落ちていた割れた空き瓶など



ひっかかる

首から下げた鍵や携帯、フードのひもが遊具にかからまるなど



落下

落下した先の危険、不用意な落下



腐食・磨耗

材木やロープで作られた遊具の腐食、磨耗



ハザード

リスクは残してハザードを取り除く!

遊び場

リスク



リスク

リスク



※年齢や成長によりリスクは変化します



●危険に備える

○備えあれば憂いなし

①危険予知と対策の徹底

- 運営団体とプレーリーダーは、消防署などで実施している救急法・止血法・心肺蘇生法などの**救急処置トレーニング**を受けておきましょう。
- 想定できるケガや事故を日頃から**シミュレーション**し、危険管理に対応できる体制を整えておきましょう。
- 緊急連絡網を作成**しましょう。**近隣医療機関の開院情報**を調べておくと安心です。
- 救急箱を点検**しましょう。

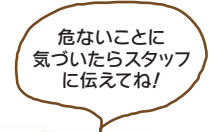


②ルールやマナーの周知

- 安全を確保し快適に活動するための考え方やマナーを明確にし、遊びに来る人に伝えましょう。

③遊び場のデザイン

- 空間づくり**: 子どもの遊びの動線がぶつからないように上るところや下るところを分け、柵や目印などをつけます。
- 配置**: 火を扱う場所やロープ遊び場の近くで、動きのある遊びに発展する物を置かないなど、場所をずらすことで対処します。
- 排除**: 釘やガラス片など物理的に取り除かなければ対処できないものを取り除きます。



○つねに点検

- 開始前と終了時・・・実際に使ってみる、下から覗き込むなど違う角度から確認。複数の視点で点検しましょう。
- 活動中・・・子どもの遊びや危険の度合いは常に変化するので、プレーリーダーは子どもの動きを常に観察しましょう。体は全体が見渡せる方向になるよう意識します。またフローター(子どもに声を掛けたり相手をしながら遊び場全体を回りつつ、あちこちを点検する人)としての役割も意識しましょう。
- 不備が見つかったらすぐ対処・・・デザインで防ぐ。移動する。取り除く。
- 記録(ふりかえりシートなど)・・・「ケガに至らなかったがヒヤリ・ハットしたこと」も含めて記入し、運営団体とプレーリーダーで共有しましょう。



●ケガ・事故が起きたら

スタッフが 気をつけること

自分が冷静になる
スタッフ間で役割分担を
明確にする



危険防止

周りで遊んでいる子どもたちへの対応

負傷者の救護・ 応急処置

できるだけ安全な場所へ移動して処置

状況把握

「いつ・どこで・だれが・なに
で・どのように」を明確に。
周囲にいた子どもにも訊く。



普段から、小さいケガの時も
記録をつけるようにしておく
といいよ。



救急箱と緊急連絡リストと
記録用紙をセットにしておく
といいね!

連絡

- 家族
- 病院・救急車
- 警察
- 担当部署（札幌市子ども未来局、(公財)札幌市公園緑化協会など）
- 保険会社

記録を取る

ふりかえりシートなどを使って、小さなケガもその都度記入！
事故報告書の作成



負傷者への事後対応

- 確認・フォロー
- お見舞い
- 保険手続き

ふりかえり・共有

事故の原因を考え対策を考える。



* 青字の項目は必要に応じて行います。



子どもに関わる大人の姿勢

プレーパークの運営に関わる人とプレーリーダーのために

嶋村仁志

子どもたちにとって、「いつもの場所で」「いつもの仲間と」「いつもの遊び」は、日々のかげがえのない安心の土台になります。その上に新しい発見や出会い、工夫や挑戦、冒険を積み重ねて、子どもたちの人生は厚みを増していきます。そのようにして、遊び心も磨かれていきます。

プレーパークの一番の目的は、「遊ぶことを通して、子どもが安心して自分自身を自由に表現できるようにする」ことです。「その子自身や他の人に重大な危害が加わらないかぎり」という条件は付きますが、子どもの興味や好奇心が生まれ実現できるように手助けするというのが、そこにいる大人の一番の目的になります。

遊び心を刺激するきっかけづくり

そこでの大人の役割にはいくつかありますが、そのひとつが遊び心の「タネ」を蒔いておくことです。「きっかけづくり」と言ってもよいでしょう。子どもたちといっしょに遊んだり、おしゃべりしたり、遊具を作ったりするのは、直接的なきっかけづくりです。また、様々な素材や道具、工具を用意し、たき火や水が使えるようにし、様々な地域の人たちが立ち寄れるようにすることも、間接的ですが大切なきっかけづくりとなります。

子どもには、それぞれに違う「遊びのツボ」があるものです。どんなきっかけが子どもたちに響くのかは分かりません。中には、「わざと大人を怒らせるようなことをする」ことがツボの子もいます。もしかすると、あなた自身がその標的になることがあるかもしれません。その時は、あなた自身が子どもたちの遊びのきっかけになっているのです。

プレーパークというと、「たき火」「工作」「ロープ遊具」といったメニューにとらわれがちですが、遊び心のキーワードというのは、もっと幅広く無限にあるはずです。みなさんも、子ども時代に戻ったつもりで探してみましょう。



直接関わる時に

プレーパークには、たくさんの子どもがやってきます。そこにいるみなさんは、いっしょに遊んだり、何かを作ってみせたり、いろんなことを教えてあげたりと、自分に合った関わりをするでしょう。そして、そうした大人たちとの関わりを求めてくる子どもたちもいると思います。

ところが、大人は「頼られたい」「喜ばれたい」という気持ちに弱くなりがちです。つい、求められてもないアドバイスやプログラム、賞品などを次々と提供してしまい、遊びを子どもたちから奪ってしまったり、窮屈なものにさせてしまったりすることがあります。

プレーパークで子どもに関わる大人は、子どもが遊ぶのを大切にする人です。本来、何をどのようにして遊ぶのかは、子どもたちが決めるのが一番です。そして、子どもたちには、子どもたちなりの遊び方があるものです。

つい、大人は直接に何かをしてあげていないと、何もしていないかのように感じるかもしれません。けれども、「大人は遠くでお茶でも飲んでいる」ということが、実は子どもたちにとって最大かつ積極的な協力だったということもあります。プレーパークにいる大人は、エンターテインメントの係員でもワークショップの先生でもない、独特の立場で子どもたちと関わっています。



こんなことはありませんか？

●頼まれてもないのにアドバイス



●プログラムを次から次へと繰り返す



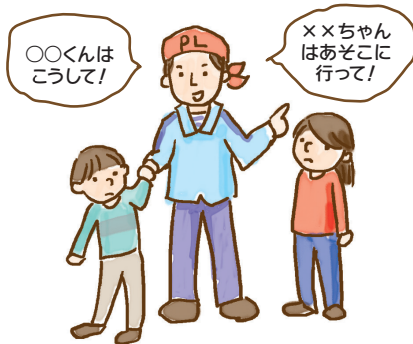
●困っている子に気づかない



●係員として遊具をずっと仕切ってしまう



●大人がつねに遊びの輪の中心



●自分のところに来る子とだけしか関わろうとしない





困ったことをする子が一番困っている？

一見すると周囲に迷惑だったり、困ったことをしたりする子には、「きちんと叱って指導しなきゃ」と考える人がいるかもしれません。でも、よく見ると、人間関係づくりや言われたことの行間を読むのが苦手で、実はその子自身が一番困っていたということもあります。それぞれの子どもには、それぞれの理由や背景があるものです。プレーパークで子どもと関わる大人は、子どもを肯定的に理解することが必要です。そして、単に「ダメ」と言うのではなく、してほしいことを具体的に伝えましょう。プレーパークは、そのようにして一人一人の子どもを支えようとする場です。みなさんも、子どもたちが安心と信頼を感じる大人の一人であってください。

ふりかえりをしよう

人に関わる仕事は、自分の人生を教科書にする仕事だと言われます。けれども、どんな大人であっても、自分の経験や価値観というのは限られているものです。プレーパークでは、たくさんの子どもに出会います。中には、心が傷ついたりする子どもたちに出会うことも多くあるでしょう。また、家や学校に居場所がないと感じている子どももいるでしょう。すべての子どもと共感を大切にしたい関わりを持つには、自分の価値観に謙虚であることが必要です。そして、子どもからも学びを得ようとする気持ちが、自分の教科書のページを増やすことにつながっていきます。

そのためにも、一日の終わりにどんなことがあったのかをふりかえてみることはとても大切です。「楽しかった」「〇〇が盛り上がった」という単なる感想よりも、「子どもたちとの関わり方はどうだったのか」ということや、子どもたちや場所のことで気になったこと、自分の心のモヤモヤを出してみましょう。多くのプレーパークでは、それを日誌という形で書き留めておくようにしています。それが、その後の報告書づくりの資料や、自分自身や遊び場の成長のための重要な記録になることもあります。





大人同士の関係を紡ぐ

過度の管理責任やクレームが問題になる社会は、大人同士の「関係の貧困」が大きな原因のひとつとなっています。子どもたちの声が多少騒がしくても、少しぐらいのケガがあっても、それが子どもたちの成長のプロセスとして受け止めてもらえるようにするためには、遊び場を囲むたくさんの人に支えられる関係づくりが欠かせません。プレーパークに関わる大人は、そうした地域づくりのコーディネーターなのです。

ここでは、みなさん自身が「何ができるか」だけでなく、「誰を知っているか」ということも大切なカギになります。町内会長さんや地域のおじちゃん、おばちゃん、学校の先生やPTAの人、公園管理事務所の人や職人さん、若者たちなど、子どもやプレーパークの身の回りにはたくさんの方が暮らしています。そうした人たちとの関係をていねいに紡いでいくことで、遊び場で子どもたちの自由は広がっていきます。そして、様々な課題解決の相談に乗ってくれるかもしれません。自由は、人と人との関係で大きくなったり、小さくなったりするものです。

<プロフィール>

一般社団法人TOKYO PLAY代表理事、特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会理事、一般社団法人日本プレイワーク協会代表理事。

1968年生まれ。英国リーズ・メトロポリタン大学プレイワーク学科高等教育課程修了。1996年より世田谷羽根木プレーパークをはじめとする多くの冒険遊び場で、プレーリーダーとして働き、国内外の冒険遊び場づくりにも関わっている。





●問合せ先一覧

プレーパーク活動全般の相談窓口

～各種講座・研修会に参加したい、プレーパーク出前講座、出張プレーパークをやりたい!

公益財団法人札幌市公園緑化協会

札幌市中央区北1条東1丁目6-16ニューワンビル4階

TEL/011-211-2579

FAX/011-211-2577

Email/play_park@sapporo-park.or.jp

札幌市のプレーパーク推進事業担当部局

～プレーパーク推進事業について聞きたい!

札幌市子ども未来局子ども育成部子どもの権利推進課

札幌市中央区南1条東1丁目大通バスセンタービル1号館3階

TEL/011-211-2942

FAX/011-211-2943

Email/kodomo.kenri@city.sapporo.jp

<http://www.city.sapporo.jp/kodomo/>

[ikusei/playpark.html](http://www.city.sapporo.jp/kodomo/ikusei/playpark.html)

北海道の遊び場情報

～道内のプレーパークや遊びに関する情報について知りたい!

あそびばネット北海道

<http://asobibanethokkaido.jimdo.com/>

Email/hokkaidouasobiba@gmail.com

全国の遊び場情報

～全国のプレーパークについて知りたい!

特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会

<http://www.ipa-japan.org/asobiba/>

公園、緑地の利用許可申請に関する相談

～どこでどんな遊びができるか相談したい!

※場所により管理担当部署が違います。

札幌市が管理する公園・緑地の問い合わせ一覧↓

<http://www.city.sapporo.jp/ryokuka/top/toiawase.html>

※市内の公園、緑地情報の検索はコチラ↓

http://www2.wagamachi-guide.com/sapporo_koen/

札幌市環境局みどりの推進部みどりの管理課

TEL/011-211-2536

FAX/011-211-2523

各区土木センター

中央区 TEL/011-614-5800

西区 TEL/011-667-3201

北区 TEL/011-771-4211

清田区 TEL/011-888-2800

手稲区 TEL/011-681-4011

東区 TEL/011-781-3521

厚別区 TEL/011-897-3800

白石区 TEL/011-864-8125

南区 TEL/011-581-3811

豊平区 TEL/011-851-1681

ボランティア活動全般に関する問い合わせ

～ボランティアを募集したい、ボランティア活動保険・行事用保険に入りたい!

社会福祉法人札幌市社会福祉協議会

ボランティア活動センター

札幌市中央区大通西19丁目1番1号

札幌市社会福祉総合センター4階

TEL/011-623-4000

FAX/011-623-0004

<http://www.sapporo-shakyo.or.jp/hotnews/category/4.html>

※施設賠償保険は民間の保険会社にお問い合わせ下さい

失敗もいっぱいするけど、
ぼくのことを応援してくれ
る人がいるから、だいじょう
ぶ。自分のこと、前より好
きになったよ。



子どもの声を聞く、遊びあふれるまちを
地域の人みんなでつくっていきましょう！



プレーパークのすすめかた ～札幌に関わる人のためのハンドブック～

この本は、札幌市からプレーパーク推進事業を受託する公益財団法人札幌市公園緑化協会が、プレーパークの運営方法について知ってもらうために製作したものです。

令和4年(2022年)3月発行

制作／公益財団法人札幌市公園緑化協会

寄稿：嶋村仁志(P13,20-24)

デザイン・イラスト：中西印刷株式会社

編集・発行／公益財団法人札幌市公園緑化協会

本書の著作権の一切は、当協会に帰属し、全部または一部を無断で転載、複写することを禁じます。